

# 地域福祉活動事例集

～わたしたちの暮らしと地域を支えている活動～



社会福祉法人 山口県社会福祉協議会



この事例集は、共同募金の配分金により作成したものです。



## はじめに

近年、社会福祉を取り巻く状況は、少子高齢化や人口の減少、経済情勢の変化等、さまざまな要因によって、既存の福祉サービスだけでは対応が困難な福祉課題・生活課題が顕在化しています。

現在の福祉課題・生活課題の多くは、地域社会や家庭の機能の低下や、つながりの喪失、社会的孤立といったことと関わりが深く、福祉関係者、住民、ボランティアだけでなく、地域社会のあらゆる構成員が社会福祉の担い手として、連携・協働し、支援を必要とする人と社会とのつながりを再構築することが期待されています。

山口県では、「困ったときにお互いが助け合える組織をつくろう」のスローガンのもと、昭和61年から県・市町社会福祉協議会を中心として、「福祉の輪づくり運動」を展開しています。この活動の中で、住民が抱えるさまざまな福祉課題・生活課題に対し、住民参加による解決をめざし、需給調整会議の実施や見守り活動、住民参加型福祉サービスの実施、活動を担うボランティアや福祉員の養成等の取組を展開してきました。

県内には、公共交通機関の減便・廃止による移動手段の課題や、商店街の店舗の減少・閉店による食料品等の購入場所確保の課題など、日常生活を送る上で深刻な課題を抱えている地域が増えていますが、「住み慣れた地域で 誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる 地域(まち)づくり」をめざし、課題解決に向けその地域の実情にあった地域福祉活動がすすめられています。

このたび、今後、地域福祉活動の取組をおこなう際に参考となるよう、市町社会福祉協議会(以後、市町社協)の協力を得て、地域において取り組まれている活動を事例としてまとめた「地域福祉活動事例集～わたしたちの暮らしと地域を支えている活動～」を発刊する運びとなりました。本事例集は、各市町で実施されている地域福祉活動の内容、活動開始に至る経緯、現状を関係者の取材をもとに紹介しています。地域福祉活動を進めていく上で多様な課題に直面する中、本会では、誰もが安心して心豊かに住み続けられる福祉のまちづくりに向けて、今後とも市町社協をはじめ関係機関・住民の皆様と連携しながら、地域福祉の推進に取り組んでまいりますので、皆様方の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本事例集の発行に際し、快く取材に御協力くださいました皆様へ、心よりお礼を申し上げます。本事例集が山口県の地域福祉の推進の一助になることを願うとともに、地域福祉に関わる皆様が地域の実情にあった取組を展開できるよう参考にいただければ幸いです。

2018年(平成30年)3月  
社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

# 目次

地域福祉活動事例集について .....	1
紹介地域の事例 .....	3
01 下関市 豊田中ボランティアキッズ 世代間交流を活性化させる子どもたちが中心のボランティア団体 .....	3
02 宇部市 北迫新町福祉の輪づくり委員会 いつまでも安心・安全で住みやすい地域づくり～見守り活動・サポート活動～ .....	5
03 山口市 鑄銭司地区社会福祉協議会 福祉への理解を深めよう～あいサポーター養成研修会～ .....	7
04 萩市 弥富でっぴん会 いろんな団体が協力 地域を元気にするサロン .....	9
05 防府市 新田地区社会福祉協議会 高齢者や障害者の気持ちを知ろう～小学生の車いす・アイマスク体験～ .....	11
06 下松市 まつぼっくりの会 子どもたちが笑顔になる布のおもちゃ作り .....	13
07 岩国市 川下地区すみれ会 1日でも長く健康でいるために取り組む 岩国はつらつ体操 .....	15
08 光市 いきいきサロン友和会 「おばちゃん」が盛り上げる明るい雰囲気サロン .....	17
09 長門市 俵山地区社会福祉協議会 隣近所で見守り合う黄色い旗運動 .....	19
10 柳井市 日積地区生活応援検討会 みんなが支え合うあたたかい地域づくり～サロン活動・生活支援活動～ .....	21
11 美祢市 秋芳地域リビング 誰もがくつろげる自由な場所 .....	23
12 周南市 便利屋さん 長年培った技術や経験を活かして高齢者が困っていることを手助け .....	25
13 山陽小野田市 サロンおおつか 施設を借りて開催する地域住民と入所者がつながるサロン .....	27
14 周防大島町 屋代地区社会福祉協議会 年間約100件の利用がある有償助け合いサービス .....	29
15 和木町 サルーン中組 季節を取り入れた活動をしている町内で最後に開設したサロン .....	31
16 上関町 元気の出る会（室津いきいきサロン） 昼食やコーヒーを楽しむ会話がはずむサロン .....	33
17 田布施町 田布施町社会福祉協議会 住民が情報を出し合って作成する支え合いマップ .....	35
18 平生町 平生地区社会福祉協議会 高齢者の見守り活動～誕生日カードでコミュニケーション～ .....	37
19 阿武町 ふれあいいきいきサロン いこい会 自宅を開放した住民が集まりやすいサロン .....	39
市町社会福祉協議会一覧 .....	41

## 地域福祉活動事例集について

本冊子は山口県内の地域で実際に取り組まれている特徴的な活動を、①ふれあい・いきいきサロン②見守り活動③福祉教育に関する取組④ボランティア活動⑤生活支援の取組(有償助け合いサービス、移送サービス、配食サービス等)⑥施設と地域住民の関わりに関する取組⑦その他の7つのテーマに分けて紹介しています。

これらの活動は、自分達の住み慣れた地域で心豊かに安心して暮らし続けるために、それぞれの地域でみなさんが自分の地域での生活課題・福祉課題について考え、地域の実情に合わせて工夫し、作り出された取組です。それぞれの活動では、地域の概要、取組のきっかけ、成果だけでなく活動者や参加者の声も紹介しています。この冊子を手にとっていただいた活動者のみなさんはもちろん、これから地域をよりよくしたいと考えていらっしゃるみなさん、それぞれの地域でまちづくりをすすめる関係機関のみなさまにとっても、取組のヒントになれば幸いです。

この事例集で掲載している  
7つのテーマ

### 見守り活動

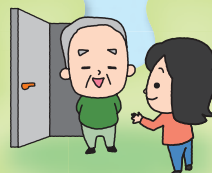
困り事の発見や交流、  
地域をつなぐ活動にも  
なっています

### 福祉教育に 関する取組

福祉に関する理解を深め、  
福祉の心をはぐくみます

### ふれあい・いきいき サロン

サロンは居場所づくりや  
生きがいづくりにも  
なっています



その他

### ボランティア活動

誰かの笑顔のための  
いろんな活動が  
自分達の生きがいづくりにも  
なっています

### 生活支援の取組

有償助け合いサービス、  
移送サービス、  
配食サービス等

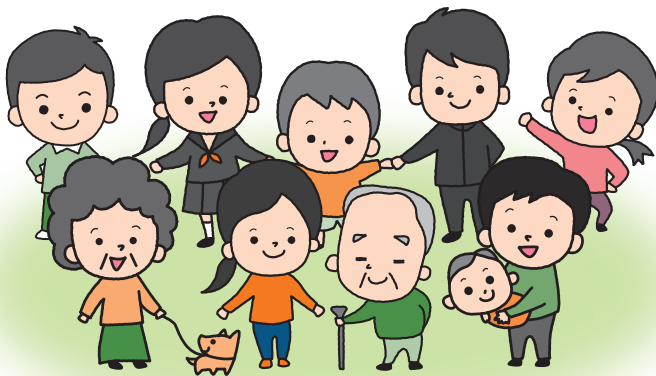
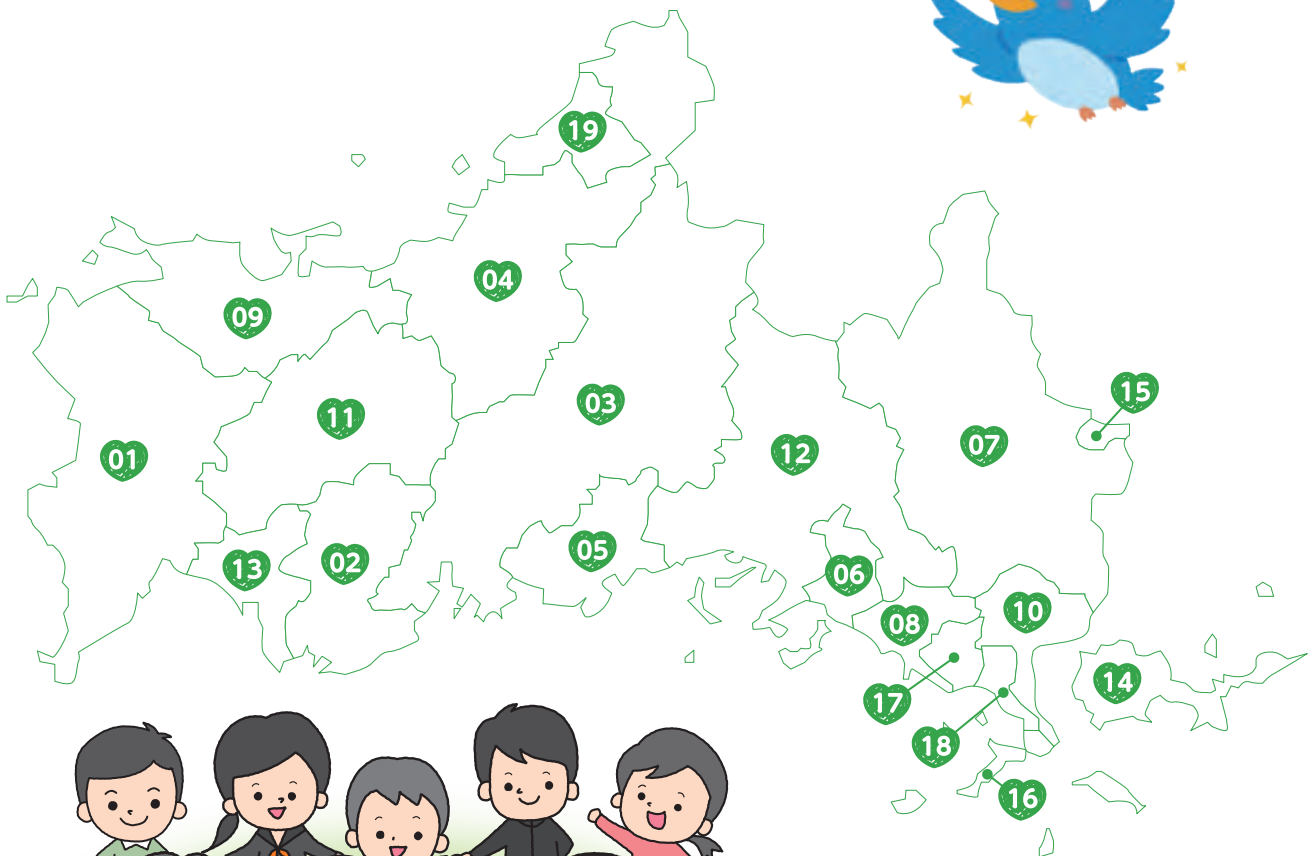
身近ないろんな困り事に対応し、  
地域で気兼ねなく助けあいます

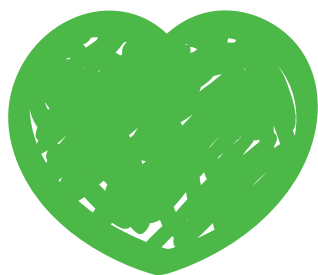
### 施設と地域住民の 関わりに関する取組

地域にある施設も  
自分達の地域の一部として  
地域づくりに貢献しています

## 紹介地域の事例

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 01 下関市..... P3  | 11 美祢市..... P23    |
| 02 宇部市..... P5  | 12 周南市..... P25    |
| 03 山口市..... P7  | 13 山陽小野田市..... P27 |
| 04 萩市..... P9   | 14 周防大島町..... P29  |
| 05 防府市..... P11 | 15 和木町..... P31    |
| 06 下松市..... P13 | 16 上関町..... P33    |
| 07 岩国市..... P15 | 17 田布施町..... P35   |
| 08 光市..... P17  | 18 平生町..... P37    |
| 09 長門市..... P19 | 19 阿武町..... P39    |
| 10 柳井市..... P21 |                    |





## 世代間交流を活性化させる 子どもたちが中心のボランティア団体

**地域名** 下関市豊田中

**団体名** 豊田中ボランティアキッズ

### 地域概況

豊田中地区は、田畑や果樹園が広がる地域。地区内に小学校は1校ありますが、全校生徒は27人です。地域のボランティアが学校周辺の清掃や、登校時の見守りを行っています。公民館活動や地区社協活動も活発で、地域交流への意識が高い地域です。サロンも14カ所あり、自主的な健康づくりに励んでいます。

人口：1,166人  
世帯数：497世帯  
高齢化率：46%  
(平成30年1月)

### 活動を始めたきっかけ

豊田中地区は、「①少子化で子ども会の存続ができていない」「②平成27年度末に、隣の地区の殿居小学校が廃校になったことで子どもが豊田中小学校へ通うようになり、学校を通じて豊田中地区の行事の告知ができていない」「③平成24年に中学校が閉校になっている」という現状があります。この3つの現状が重なり、地域間・世代間交流が希薄になっていると感じた代表が、社協の行事に参加してくれる子どもたちを中心に、平成28年7月に豊田中ボランティアキッズを発足しました。

### 活動者のコメント

豊田中ボランティアキッズ 代表 銚川 紀子  
豊田中地区社会福祉協議会 会長 藤本 保彦

子どもたちが地域の中で活躍する場を作ることは、子どもたちを地域全体で大切にすることにつながります。子どもたちが地域と関わりを持つことで、福祉への意識を向上できればと思いますが、何よりも子どもたち自身が楽しんで活動できることを1番に考え、ふるさとである豊田中を大好きになってくれることを願っています。



### 今後に向けて

メンバーの成長に伴い、中学生が活動の中心になっているため、子どもたちの自主性を育てていきたいと思っています。現在は、代表からやることを提案していますが、ボランティアとしてやってみたいことなど、子どもたちから声が出るようになってほしいです。自主性が出てくると、活動の幅が広がってくると思います。

## 活動内容

# 豊田中ボランティアキッズ

豊田中地区で行われる行事、公民館の祭りや地区社協の主催する行事に、ボランティアとして参加するほか、研修会、交流会など子どもたちが楽しめる行事を行っています。参加者は、小学生12人、中学生5人、大人（保護者）8人の、計8家庭25人です。

### 活動実績

豊田中ボランティアキッズでは、以下の活動に取り組んできました。

年度	月	活動内容
平成28年度	5月	親子ボランティア研修 (初心者手話教室)
	7月	豊田中ボランティアキッズ発足 親子ボランティア講座 (徘徊者捜索模擬訓練)
		8月
	12月	歳末友愛訪問用のクッキーづくり
	1月	お泊り交流会
	3月	三世代交流グラウンドゴルフ大会

年度	月	活動内容
平成29年度	7月	ボランティア研修会 (山口県酪菊川工場見学)
	8月	豊田中公民館祭り (子どもみこしの製作)
	9月	デイサービス慰問
	12月	歳末友愛訪問用のクッキーづくり

#### 初心者手話教室

ボランティアキッズの発足前の平成28年5月に、ボランティアの第一歩として、講師を招いて手話教室を開催しました。



#### 子どもみこしの製作

公民館で開催される祭りに合わせて、子どもみこしを手作り。花や折り紙などを貼って飾ったおみこしは、子どもたちで担ぎます。



#### 友愛訪問用のクッキーづくり

子どもたちが作ったクッキーとメッセージカードは、社協が70歳以上の一人暮らしや寝たきりの人を訪問するときに、配っています。



### 活動を始めて起こった変化

ボランティアキッズの活動を始める前、若い世代は社協の認知が低かったのですが、保護者と子どもたちが、一緒にボランティアキッズの活動をするようになったことで、社協の存在が浸透してきました。また、若い世代と高齢者の交流も活発になりました。中学生はボランティアキッズの活動以外に、他のボランティア活動にも積極的に参加していると聞いています。

### 活動の課題

課題は2つあります。1つは、声かけに限りがあることです。学校を通じて行事のお知らせをすることが難しいので、告知の方法を工夫する必要があります。もう1つは、後継者がいないことです。現在は代表が1人で取り仕切っていますが、これからは、活動に参加しているお母さんたちを運営側にも巻き込み、いずれ後継者になる人が出てくればと思います。

# 02 宇部市



## いつまでも安心・安全で 住みやすい地域づくり ～見守り活動・サポート活動～

**地域名** 宇部市北迫新町

**団体名** 北迫新町福祉の輪づくり委員会

### 地域概況

昭和50年代に開発された住宅団地で、当時から住み続けている人が多いため現在は70代ぐらいの人や、ひとり暮らしの高齢者世帯が多くなっています。一方で、小中学校に近いことから、その方たちの子どもや孫等、若い人たちも住んでいます。そのため、老人会や子ども会の活動も活発です。大学病院や市役所までは約4kmと、比較的市街地には近い場所ですが、バスの減便で買い物が不便になっているのが実情です。

人口：1,000人  
世帯数：423世帯  
高齢化率：37%  
(平成29年10月)

### 活動を始めたきっかけ

高齢化が進んでいる本地区が、これからも「誰もが安心して住み続けられる地域・住んでいてよかったと思える地域」であり続けるために、平成28年4月に福祉の輪づくり委員会を自治会の中に組織しました。その後、住民アンケートによる必要な支援の把握や、委員会の規程や体制づくり等を行い、住民説明会を開催しました。平成29年4月より見守り隊とサポート隊を組織し、本格的な活動を開始しました。



住民説明会の様子

### 活動者のコメント

北迫新町福祉の輪づくり委員会 委員長 江尻 清治

見守り隊 副委員長 田中 孝雄

サポート隊 副隊長 神谷 晃

現在、見守り活動・サポート活動を始めてから1年弱が経ち、どちらの活動も軌道に乗ってきています。ただ、活動をいかに継続していくかが問題です。マニュアルや規程を作ることで引き継いでいけるようにはしていますが、委員会の担い手も高齢化が進んでいます。働いている世代を担い手に取り込んでいけるように活動していきたいです。



### 今後に向けて

近くのスーパーへの直行バスが廃止になっているため、住民から要望の多かった「買い物補助」を検討し、平成30年1月より社会福祉法人 光栄会の御厚意で月2回、大手スーパーへ買物支援バスの運行を開始しました。また、コープやまぐち（おひさま号）も毎週土曜日に自治会館前に来るようになり、住民から喜ばれています。北迫新町が快適に暮らせるまちになるように、これからも住民から要望があったことを一つずつ活動の中に取り入れていきたいと思っています。

## 活動内容

### アンケートの結果

平成28年9月に、(1)住民が見守りやサポートをどのくらい必要としているのか、(2)ボランティアとしてサポート活動に参加できる住民がどのくらいいるのかを把握するために、全住民を対象としたアンケートを行いました。結果は以下の通りです。

アンケート配布戸数	375戸	
アンケート回収戸数	349戸 (回収率：93%)	
(1)	見守り希望の世帯	10戸
	サポート希望の世帯	18戸
(2)	サポート活動参加希望者	62人

- ・回収率は極めて高く、住民の関心の高さがうかがえます。
- ・回答への追加記載として、「現時点ではどちらも必要ないけれども、必要となったときはよろしくお願ひします」というコメントが多数あったことから、住民の関心の高さがうかがえます。
- ・サポート活動への参加人数は、予想をはるかに上回りました。

### 1 見守り活動

アンケートで見守りを希望した方を対象に活動しています。まず、対象者の同意を得た上で、連絡先や世帯状況を記入した「見守りカルテ」を作成します。そのカルテを元にして、民生委員、福祉委員、老人クラブ会員で担当を決めて自宅を訪問していきます。訪問の際は、家の外の確認（ポストに郵便物が溜まっていないかなど）と、実際に顔を見ての確認（体調の変化はないかなど）を行い、「見守り活動記録表」に記入します。月に1回、報告会議を開いて情報交換をしています。



訪問の様子

カルテの見本

### 2 サポート活動

アンケートで希望者が多かった「ゴミ出し」のサポートをしています。利用者にはあらかじめサポート券（10枚綴り・1,000円）を購入してもらい、有償で行います。燃えるゴミ・プラスチック包装ゴミ・紙包装ゴミは1回につきサポート券1枚、不燃ゴミは1回につきサポート券3枚にしています。利用者はサポート隊の登録メンバーと相談の上、できるだけ近隣の知り合いで、各自のサポートチームを作っています。利用する際は、前日夕方までにチームに連絡し、玄関にゴミを出しておきます。当日、サポートチームがゴミを引き取りに来たときにサポート券を渡して、ゴミ出しを行ってもらいます。不燃ゴミ（荒ゴミ）の中には布団や家具等の大きなものもあり、それらはサポート隊が車で出しに行っています。

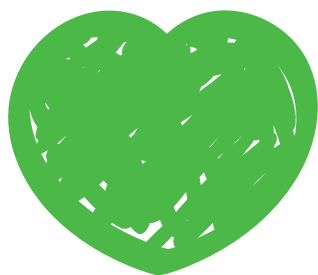


ゴミ出しのサポートの様子

福祉の輪づくり運動「ボランティア券」		
①	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
②	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
③	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
④	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
⑤	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
⑥	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
⑦	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
⑧	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
⑨	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会
⑩	サポート券「ゴミ出し」 1枚「100円」	北道新町自治会

チケットの見本

# 03 山口市



## 福祉への理解を深めよう ～あいサポーター養成研修会～

地域名 山口市鑄銭司

団体名 鑄銭司地区社会福祉協議会

### 地域概況

鑄銭司地区は、山口市内でも高齢化率が高い地区で、地区内には高齢者施設や特別支援学校、障害者支援施設等もあり、「福祉のまち」と呼ばれています。

人口：2,604人  
世帯数：1,353戸  
高齢化率：41%  
(平成29年8月)

### 活動を始めたきっかけ

「福祉のまち」と呼ばれている鑄銭司地区ですが、学校や施設、地域住民との繋がりが薄いと感じていました。そこで、まずは住民に障害のことについて知ってもらいたいという思いから、鑄銭司地区社協が主体となり、自治会、老人クラブ連合会、民生委員児童委員協議会等の協力を得て平成28年度より「あいサポーター養成研修会」を始めました。平成28年度は、地区内の小学校で実施し、平成29年度は、山口南総合支援学校がコミュニティ・スクール指定校になったこともあり、山口南総合支援学校が今年度の研修の引き受けをされました。

- ※「あいサポーター」…地域の誰もが障害のある方と共に生きるサポーターになる取り組み「あいサポート運動」を実践する方々
- ※「コミュニティ・スクール」…保護者や地域住民が学校運営に関して協議することによってより質の高い教育を提供していくために学校運営協議会制度を導入した学校のこと。

### 活動者のコメント

鑄銭司地区社会福祉協議会 会長 綾城 明美

鑄銭司地区は「福祉のまち」と言われているものの、住民にその意識があるかといわれると、まだまだです。住民の意識を向上させるため、来年度からもこの取り組みは続けていきたいと考えています。開催場所を特定するのではなく、地区内にある学校・施設を持ち回りで会場にすることで、より多くの住民に対して、障害への理解を深める機会になればと思っています。



### 今後に向けて

今後は、さらに特別支援学校や障害者支援施設との連携が求められます。現在は、地区の老人クラブがしめ縄づくり等を通じて生徒との交流をしていますが、これだけではコミュニティ・スクールとしての役割を果たせていないように思います。地区で登下校の見守りをするなど、積極的に関わりを持つことで、相互に往来できる開かれた学校・施設・地域づくりを実現していきます。

## 活動内容

# あいサポーター養成研修会

平成29年9月に山口南総合支援学校で、「あいサポーター養成研修会」が行われました。山口南総合支援学校との共催ということで、見学を通して、学校の取り組みについても参加者に紹介されました。

## 1 あいサポーター養成研修会

山口県障害者支援課の方から、あいサポーター運動についての概要や、障害者を取りまく日本の法律などについての話がありました。もっとも重要なのは、私たちが「障害を知ること」だと強く述べられており、障害の解説付きのDVDを見ながら、参加者は理解を深めました。研修を受けられた方には、あいサポーターのバッジが配られました。



## 2 山口南総合支援学校の紹介

スライドを使い、校長先生から学校の紹介がありました。地域に開かれた学校になることは、生徒たちにとってもプラスになるという考えのもと、①地域から当校への支援、②当校から地域への奉仕、③地域と当校と一緒にボランティア等に取り組むといった3つのパターンで、地域とのつながりを深めていきたい。そして、「地域にある学校」から、「地域とともにある学校」へと存在を高めたいとお話されました。



## 3 講演「障害があってもスポーツで大変身！」

生まれつき聴覚に障害のある矢野能嗣さんによる講演会が行われました。矢野さんはサッカーの現役選手でもあり、2013年のデフリンピック（聴覚障害者のためのオリンピック）で、サッカー日本代表のコーチを務められた方。「障害を持っていてもスポーツをすれば生まれ変わる」の言葉には強い説得力がありました。講演に参加していた高等部の生徒からも質問が飛ぶなど、活気のある講演会になりました。



## 4 ふれあいタイム (生徒の作品の展示・販売、喫茶体験)

講演の後は、生徒が作成した木工製品（椅子など）、手工芸品（エプロンやバッグなど）、農作物等（タマネギやピーマンなど）の展示や販売の時間となりました。また、喫茶コーナーではマドレーヌやコーヒーが振る舞われました。お客さんの呼び込みや、商品の説明、会計まで全て生徒主体で行われており、日頃の成果を発表できる良い機会になりました。

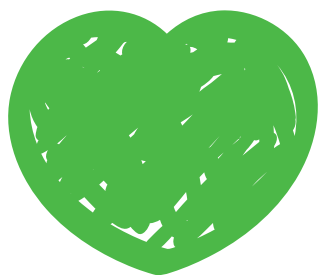


## 5 学校見学

先生の説明を受けながら、校舎を見学して回りました。補聴器が足音を拾い過ぎないように床がカーペットになっていたり、時計の横に授業中、休憩中、緊急を表すランプがつけられていたり、どんな障害を持っている生徒でも過ごしやすいように、さまざまな工夫がされていました。また、木を使用して椅子を作る授業の見学では、生徒の技術力の高さを直接見て知ることができました。



# 04 萩市



## いろいろな団体が協力 地域を元気にするサロン

地域名 萩市弥富

団体名 弥富でっぴん会

### 地域概況

弥富地区は萩市内でもかなり高齢化率が高く、人口の減少も目立つ地域です。バスは通っていますが本数が少なく、車の運転ができなければ買い物や通院に苦勞します。中学校は平成16年に廃校になり、小学校の全校児童は現在6人です。特産品はそばで、年1回そばの花まつりが開催されています。

人口：499人  
世帯数：249戸  
高齢化率：59.1%  
(平成30年1月末)

### 活動を始めたきっかけ

地区（1区、2区など）ごとのサロンはありましたが、弥富地域全体を対象にしたサロンはなく、住民は集まる場を必要としていたため、平成28年2月より自分たち（住民）で月1回のサロンを始めました。その後、弥富地区ささえあい協議体や地区社協と協働することによって、平成29年4月から登録制の訪問型サービスを開始。サロンも月1回から週1回に増やし、「ちょっとひと休み」という名称をつけて活動をするようになりました。

### 活動者のコメント

弥富でっぴん会 岩本 裕子

「ちょっとひと休み」は、まだ16回の開催にも関わらず多くの方の参加があり、活動をはじめた甲斐があったと思っています。また、協力してくださる団体も積極的で、頼りになる方たちばかりなので、助かっています。平成29年から始めた訪問型サービスに関しても、登録者よりもボランティアの数が多いなんて、嬉しい悲鳴です。弥富の人材を存分に活かし、元気な地域にしていけるように、これからも活動していきたいです。



### 今後に向けて

「ちょっとひと休み」の活動を継続していく事が大切だと思っています。開始から1年も経っていませんが、この活動は地域に定着しているように感じます。ただ、参加者に偏りがみられるなど、まだまだ課題があります。より多くの地域の人に、「火曜日はいこいの家に行けば誰かがいて、誰かと話ができる」という考えが根付くように、働きかけていきたいと思っています。

## 活動内容

### 1 ちょっとひと休み

毎週火曜日の10:00～15:00の間、弥富老人憩の家を開放しています。誰でも気楽に立ち寄れるように、開放日には外に旗を立ててお知らせしています。弥富にある団体が協力して開放しているので、無理のないように、集まったメンバーで何をするか等、活動の内容は自由に決めてもらっています。平成29年10月までで16回開催したところ、193名の利用がありました。



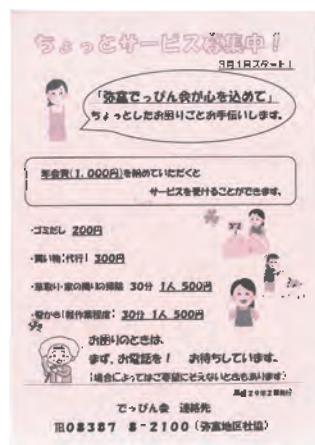
### 2 外出サロン

山口県内のさまざまな場所に行く、月1回の外出サロンも行っています。毎月10人弱の参加者があります。この日は山口市に出かけ、ボランティアガイドの方をつけての、瑠璃光寺五重塔の見学や、和紙を使ったコサージュ作りを体験しました。参加者のいきいきとした表情が、非常に印象的です。



### 3 訪問型サービス

年会費を納めて登録してもらおうと、ゴミ出し・買い物の代行等のサービスを受けられるというものです。平成29年10月時点での登録者は4人で、実際に依頼があったのが2件です。一方で、ボランティアとして登録している人は26人で、需要と供給の差が大きくなっています。ちょっとひと休みに比べると、サービスの認知度が低いのが現状です。

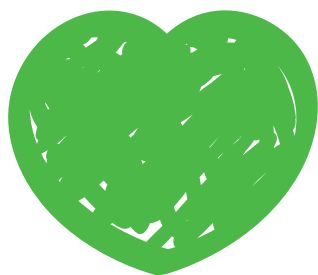


### 4 協議体会議

弥富地区で地域福祉活動をしている団体の代表者が集まって開催される「弥富地区ささえあい協議体会議」へでっぴん会も出席しています。この会議に出席している様々な団体の方に、「ちょっとひと休み」や訪問型サービスに関して助言や協力をいただきながら、でっぴん会の活動をすすめています。



# 05 防府市



## 高齢者や障害者の気持ちを知ろう ～小学生の車いす・アイマスク体験～

地域名 防府市新田

団体名 新田地区社会福祉協議会

### 地域概況

防府市の南部に位置する新田地区。小学校や中学校などがあるため、高齢化率はそれほど高くありません。海が近く、大きな工場やスポーツセンターもあります。また、江戸時代に全国有数の大製塩地として栄えていた「三田尻塩田」も新田地区にありました。

人口：9,068人  
世帯数：4,241世帯  
高齢化率：24.49%  
(平成29年10月)

### 活動を始めたきっかけ

「防府市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に①学校と地区社会福祉協議会との協働で実施できる、福祉教育・ボランティア学習プログラムの検討・企画・実施、②地域住民が地域の高齢者や障害のある人に対する理解を深めるための、関係機関との関係づくりの2点が盛り込まれたことにより、防府市社協と市内の地区社協が協働して福祉教育を各小学校で行うようになりました。

学校で福祉教育を実施する際には、説明などは防府市社協が実施し、地区社協は子どもたちに声かけなどを行っています。

### 活動者のコメント

新田地区社会福祉協議会 会長 高森 哲郎・副会長 中谷 俊美

地区社協と学校が本格的に関わるようになってから、約10年が経ちます。毎日立哨をするので、顔見知りになる児童も増えていきます。顔見知りの人が学校行事に携わるのは、子どもたちにとっても、親御さんたちにとっても安心感があるのではないかと思います。子どもたちはかわいいですし、私たちも元気ももらっています。



### 今後に向けて

担い手がいつも同じ顔ぶれになってしまうことが課題です。若い人を巻き込むことができれば、もっと幅広くさまざまな形でサポートができるのではないかと考えています。また、新田地区社協は昭和40年ごろからあるため、事業や活動のマンネリ化が進んでいるように思います。時代にあった形で柔軟に対応していくことも今後の課題です。

## 活動内容

# 防府市立新田小学校 4年生 81 人を対象にした福祉体験学習

車いす・アイマスク体験を通じて、高齢者や障害者の生活の様子について関心を持ち、その人たちとの関わり方について考えることで、今後の自分たちの行動につなげることが目的です。児童たちは、車いす体験とアイマスク体験を30分ずつ行いました。

## 1 車いす体験

まず、基本的な車いすの操作説明がありました。その後、段差を昇るときや、坂道を降りるときはどのように操作したらよいかを習いました。段差は足元にあるレバーを踏み、車いすを持ち上げて昇ること、坂道を降りるときは、後ろ向きで降りることを学びました。実践では2人1組になり、体育館の出入り口を使って、段差を昇ったり、スロープを降りたりしました。児童からは、「車いすを動かすのがドキドキした」「段差のときに車いすを持ち上げるのが難しかったし、乗っているときも怖かった」などの感想がありました。



## 2 アイマスク体験

まず、事前に配られた資料に沿って、ガイドヘルプの方法を中心に説明がありました。視覚障害のある人をガイドする場合には、歩きはじめるときや止まるときなど、ささいなことでも声かけがとても重要なこと、自分の右ひじを持ってもらってガイドをすることなどを学びました。説明の後は2人1組になって、交互にアイマスク歩行とガイドヘルプを体験しました。児童からは、「視覚障害者の人の気持ちが分かった」「階段のはじまりと終わりが特に怖かった」などの声がありました。



そのほか、新田地区社協では次のような活動をしています。

### 学校に携わる活動

- ・登下校の見守り
- ・放課後教室
- ・ミシン教室・習字教室のお手伝い
- ・本の読み聞かせ
- ・朝学の丸つけ
- ・遠足への同行 など

### 地区社協だよりの発行

年3回、6月・11月・3月に地区社協だよりを発行して、地区内全戸に配布しています。決算や、役員のお知らせもありますが、メインは行事の報告です。地区社協がどのような活動に関わっているのかわかってもらうよい機会になっています。



# 06 下松市



## 子どもたちが笑顔になる 布のおもちゃ作り

地域名 下松市

団体名 まつぼっくりの会

### 地域概況

充実した商業施設や、しっかりした都市基盤もありながら、山や海などの豊かな自然もあるところです。また、コンパクトなまちなので、瀬戸内沿岸部から山間部まで短時間で移動することができます。近隣市（周南市等）へのアクセスもよく、住んでよし、働いてよしの環境が整っています。

人口：57,215人（平成29年9月末）  
世帯数：25,877世帯（平成29年9月末）  
高齢化率：28.9%（平成29年8月末）

### 活動を始めたきっかけ

萩市の障害者支援施設に、布のおもちゃがある話を聞いて、実際に見学に行ったのがきっかけです。布のおもちゃは、やわらかくて手触りがよく、障害のある子ども喜んで遊んでいたのが印象的でした。別の市で布のおもちゃを製作していた団体の代表者が下松市に住むようになったことや、下松市社協から話があったことがきっかけで、平成9年にボランティアグループ「まつぼっくりの会」を立ち上げ活動を開始しました。

### 活動者のコメント

まつぼっくりの会 会長 久保 朝子

私たちの活動は、活動時間は決まっていますが、仕上げの時期を具体的に決めているわけではないので、いつ来てもいつ帰ってもいいようにしています。

「会員の活動のしやすさ」を第一に考えています。もちろんしゃべるのも自由なので、とてみにぎやかな2時間です。会員からは、「作業ももちろん楽しいけど、みんなで時間を共有するのはもっと楽しい」という声が聞かれます。

### 今後に向けて

この活動は気がついたら20年が経っていたという感じがしています。これからも、このままの規模で続けていくことができればと思います。また、現在の会員は、高齢化がすすんでおり若い方でも50代後半です。なかなか難しいとは思いますが、30代くらいの若いお母さんにぜひ会員になってほしいと思います。



## 活動内容

### 1 布の絵本、おもちゃの製作

毎週木曜日の10:00～12:00に活動しています。会員は20名程度で、1人が1つの作品を作るのではなく、何人かで協力して1つの作品を作っています。

#### おもちゃの特徴

まつぼっくりの会のおもちゃは、①子どもの情緒を育むもの（絵本など）、②体を動かせるもの（ボールなど）、③学習に役立つもの（数を数えるおもちゃなど）になるように製作しています。さまざまなことを考慮しながら、これまで約160点のおもちゃを製作してきました。どのおもちゃも、子どもの喜んで遊ぶ顔や、先生がおもちゃを使って子どもに教えるところを想像しながら製作しています。

#### 気をつけていること

1つ目は安全面です。特徴として、まつぼっくりの会のおもちゃにはボタンは使用せず、誤飲の危険がないようにしています。他にも、作業の場はミシンや針を使うので、小さい子どもを連れてくることはお断りしています。また、万が一作業中に針がなくなってしまう時は、そのおもちゃは捨てるようにして、安全を徹底しています。

2つ目は、子どもの目線で考えることです。色合いひとつとっても、子どもが喜びそうな明るい色を選ぶようにしています。綿は、子どもの手のサイズを考えて詰めていますし、マジックテープも、子どもの引っ張る力を考えた大きさに縫い付けるようにしています。

製作したおもちゃ▶



◀過去の作品集



### 2 貸し出し

製作したおもちゃは、市内の児童センター、幼稚園、小学校（特別支援学級）、総合支援学校、特別養護老人ホームなど、計24ヶ所に貸し出しています。1つの貸し出しにつき、6～10個のおもちゃを貸し出しています。学校とは連絡ノートでつながっていて、子どもたちの遊ぶ様子や「こんなおもちゃを貸してほしい」といった要望も書かれています。

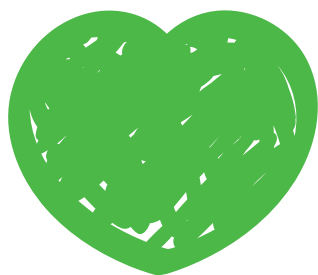
### 3 修繕

貸し出したおもちゃは、夏休みと春休みの間に回収して、点検をします。フェルト等が破れていたら修繕、汚れていたら洗濯、数が足りないものは補充をしています。また、マジックテープの間にはさまった糸くずもきれいに取り除いています。クタクタになったおもちゃを見ると、こんなに使ってくれたんだという喜びがあります。

### 4 作品展

会が発足して10年目から、2年に1回のペースで作品展を開いています。先生方は、貸し出されたおもちゃしか知る機会がないので、他にもこんなおもちゃがあると気付いてもらうきっかけになればと思っています。





## 1日でも長く健康でいるために取り組む 岩国はつらつ体操

**地域名** 岩国市川下

**団体名** 川下地区すみれ会

### 地域概況

岩国市の中心市街地に比較的近い地域であるため、若い人も多く住んでいます。しかし、1世帯あたりの人数は1.9人と2人を切っていて、高齢者世帯は単身が多くなっています。

人口：572人  
世帯数：300世帯  
高齢化率：33%  
(平成29年11月)

### 活動を始めたきっかけ

単身の高齢者が増え、いざという時のために顔を知っておくことが大切だと思い、平成26年からサロン活動を始めました。サロンで集まって話をする中で、住民が抱えている困りごとが明らかになりました。そこで、サロンの場で見つかった困りごとを、サロンに関わっている方を集めて、平成27年より活動を始めた「高齢者生きがいボランティアグループ」によるボランティア活動で解決するようになりました。活動のおかげで、日頃から見守りや困りごとの解決に向けた取り組みができる地区になりました。

### 活動者のコメント

川下地区すみれ会

サロン寿クラブ 担い手 木村 妙子

高齢者生きがいボランティアグループ 代表 嘉屋本 徳美

サロン活動やボランティア活動が根付いているのは、参加者が和気あいあいと楽しく活動をしているからだと思います。この雰囲気でもこれからも続けていくために、すみれ会に60代ぐらいの若い人に加入してほしいと思っています。また、男性の参加者ももっと増やしていきたいです。



### 今後に向けて

サロンで半年間、介護予防教室を開催してみて、最初はじっくり体を動かす体操で本当に効果があるのか半信半疑でした。しかし、階段を上ることができなかった参加者が上れるようになった姿を目の当たりにし、体操の力はすごいと感じました。介護予防教室は終わりましたが、この体操を継続していくことが大事だと思うので、サロン活動に取り入れて、引き続き行っていきたいです。

## 活動内容

### 1 サロン活動（サロン寿クラブ）

毎月第1・第3金曜日に、川下寿供用会館で活動をしています。対象者は、60歳以上の高齢者です。1回の参加人数は約15人。サロンに参加した人が友達を連れてくることもあり、口コミで参加者が増えていきました。普段は社協にサロン支援の講師登録をされている方に来てもらい、歌やゲーム、レクリエーションなどを行っています。

#### 介護予防教室

平成29年6月から半年間は、第2・第4金曜日のサロンで介護予防教室（全13回）を開催。岩国市社協から紹介を受け、岩国第一地域包括支援センターの職員を招いて、介護予防の知識や介護予防体操の方法を教えてくださいました。

##### 専門家を招いて勉強

介護予防教室の日は、各自でバイタルチェックをしたあと、専門家の話を聞きます。半年間で、お薬手帳の使い方や薬の飲み方、家で手軽にできる運動、杖や手押し車の使い方を学びました。高齢者にも分かりやすいように、文字を大きくしたり、クイズ形式にしたり、工夫されていました。



バイタルチェックの様子

##### 岩国はつらつ体操

そのあと、「岩国はつらつ体操」をします。岩国はつらつ体操は、転倒を予防し、筋力・柔軟性やバランスを高めるための体操です。約30分かけてじっくり体を動かしていきます。体操の指揮者を参加者の中から選び、号令に合わせて全員で数を数えながら行います。深呼吸から始まり、首、肩、腕、指の順に上半身を動かしていきます。そのあとは、いすに座って下半身の運動です。全身を一通り動かしたら、マットを使った運動を行います。



##### 表彰式

この日は介護予防教室の最後の日で、参加者には修了証が手渡されました。さらに、10回以上参加した人には、皆勤賞として、手作りのクリスマスプレゼントもありました。



### 2 ボランティア活動（高齢者生きがいボランティアグループ）

不定期で、ボランティア活動を行っています。内容は、高齢者の話し相手、ゴミ出し、草取りなどです。他にも、手紙を代わりに読んだり、返事を書いたりしている人や、買い物補助をしている人もいます。



ゴミ出しの様子



草取りの様子

# 08 光市



## 「おばちゃん」が盛り上げる 明るい雰囲気ของサロン

地域名 光市中島田

団体名 いきいきサロン友和会

### 地域概況

中島田地区は、県道を挟んで東西に住宅が点在しています。地区内には中学校、小学校、老人保健施設、病院（精神科）、商店、コミュニティセンターが1箇所ずつと、県営住宅や市営住宅、企業の社宅があります。比較的平地に住居はありますが、大型店舗や総合病院が近くになく、バスの本数も限られているので、車を運転できない高齢者は不便を訴えています。

人口：883人  
世帯数：385世帯  
高齢化率：26.8%  
(平成29年11月)

### 活動を始めたきっかけ

活動の背景には、代表が舅と姑を15年介護して看取ったことがあります。二人とも認知症と寝たきりの生活で、介護を受けていた間は楽しい思いをすることなく亡くなりました。その後、自分も周りの人も、今後の人生を楽しく過ごせるようにしたいと思い、活動を始めました。平成16年頃に、親しい友達5～6人に「おしゃべりしよう」と声をかけ、公民館（現 コミュニティセンター）で集まるようになり、徐々に参加者が増えるようになりました。

### 活動者のコメント

いきいきサロン友和会 代表 岡田 サトノ

私は周りから、名前ではなく「おばちゃん」と呼ばれています。「おばちゃんがいるから一緒に活動できる」と言ってもらえるので、その言葉をありがたく思って頑張っています。みんなが活動に協力してくれるので、とても助かっています。



### 今後に向けて

サロン活動をもっと盛り上げていくために、他のサロンでやっている珍しいものを取り入れたいと考えています。社協などで開かれる勉強会や交流会に参加して、他のサロンではどんな活動をしているのか知りたいです。また、家から出ない人を外へ引っ張り出すため、社協の車を借りて日帰り旅行などもしてみたいです。一人だと外に出るのがおっくうでも、団体となれば行きやすいのではないかと思います。

## 活動内容

### 1 サロン活動

毎週木・金曜日の10:00～12:00の間、中島田コミュニティセンターで活動をしています。木曜日は俳句といきいき百歳体操に取り組み、金曜日は毎週違う内容で開催しています。テレビで見た「笑いヨガ」を取り入れたこともあります。この日は歌の日で、参加者はアコーディオンの演奏に合わせて、童謡や民謡を歌いました。サロンの活動資金は、古紙等の廃品回収を行い、年間約2万円を確保しています。

#### サロンの雰囲気

サロンに参加している人は、明るくおしゃべり好きで、積極的な人が多いです。さらに、楽しいこと・おもしろいことをしようという強い気持ちもあります。毎週金曜日は違うことを行っているのも、より多くの人に楽しんでもらいたいという代表の気持ちからです。また、参加者が、代表の岡田さんのことを「おばちゃん」と親しみを込めて呼ぶことで、サロンがより明るい雰囲気になり、活性化につながっています。



楽譜を見ながら声をそろえて歌います

#### 金曜日の活動内容

第1金曜日	保健の話・健康体操
第2金曜日	歌
第3金曜日	手芸
第4金曜日	お茶会（おしゃべり）



### 2 発表会

平成20年頃から、友和会のアピールのために、年に1回、昼食会を兼ねた発表会を実施。子ども会も参加することがあり、毎年地域の人を約100人招待しています。何をするかは、サロンに参加している人たちが自主的に決めていて、衣装や小道具を自分たちで作ることもあります。また、この発表会のおかげで今まで接点がなかった人と、新たなつながりが生まれることもあります。



発表会の様子



#### 発表会には男性も参加

友和会の活動には男性の参加者はまだいません。しかし、毎週水曜日にカラオケを楽しんでいる14、5人の男性のグループに、「発表会や敬老会で、浴衣を着て一緒に踊ってほしい」と頼むと、快く引き受けてくれました。これをきっかけに、サロンの方にも顔を出してほしいと思っています。いかに男性を引っ張り出すかは、このサロンの課題ですが、担い手に男性を入れることができれば、男性の参加者も増えるのではないかと考えています。



敬老会の様子



### 3 「うそ電話詐欺防止キャンペーン」の啓発運動

平成28年は、初めて光警察署の生活安全課と連携し「うそ電話詐欺防止キャンペーン」の啓発運動の一環として、ミニ草履を300足作り、スーパーの店頭で一般市民に配布しました。平成29年度も2月に第2弾として、ティッシュ入れをサロンで手作りし、配布を行いました。



## 隣近所で見守り合う 黄色い旗運動

**地域名** 長門市俵山

**団体名** 俵山地区社会福祉協議会

### 地域概況

俵山地区は温泉地として有名で、観光資源が豊富です。長門市の南端部に位置し、標高約140メートルの中山間地にある地区のため、交通の便が悪く、大きな店舗はありませんが、農協や温泉街の商店、移動販売があります。少子高齢化、過疎化が進行し、高齢者世帯や一人暮らし世帯が増加しています。

人口：1,039人  
世帯数：458世帯  
高齢化率：50.19%  
(平成29年10月)

### 活動を始めたきっかけ

少子高齢化、過疎化の進行に伴って、安心して暮らせる地域づくりが急務となったことがきっかけです。参考にしたのは、先進的に地域による見守り活動に取り組んでいた大分県宇佐市。平成25年2月に視察に行き、そこで行われていた「黄色い旗運動」を取り入れることを決めました。俵山地区で活動を開始したのは、平成26年3月のことです。

### 活動者のコメント

俵山地区社会福祉協議会 会長 藤野 忠次郎

これから福祉事業を進めていくにあたって、少子高齢化や過疎化など、生活環境が大きく変化していく中で、公的なサービスだけであらゆる問題を解決することは難しくなります。田舎ほど公的サービスに依存しがちですが、あくまでも中心は市民です。「老いも若きも全員参加、1人1役」の気持ちを持って、この運動を続けていきたいと思っています。



### 今後に向けて

あれもこれもと欲張って、いろいろな活動を追加していくと、どれも続かなくなってしまうので、黄色い旗運動を継続して行っていきたいと考えています。しかし、後継者がいないことが課題です。若い人に俵山に戻ってきてほしい気持ちはありますが、今のままでは無理です。若い人が帰ってきたくならないような受け皿づくりも考えていかないとはいけません。

## 活動内容

# 黄色い旗運動

「黄色い旗運動」とは、俵山地区の住民が、外から確認しやすい軒先などに黄色い旗を掲げ、地域全体で声をかけあう運動です。高齢者世帯だけでなく俵山地区全世帯が対象で、お互いを見守ることにより、誰もが安心して暮らせる地域を目指しています。

### 手順

- ①朝、軒先に黄色い旗を立てる。
- ②夕方、黄色い旗を収める。
- ③黄色い旗を立てていない場合、または収めていない場合は、近隣の人や親戚の人が確認し、必要があれば自治会長や民生委員に連絡する。

黄色い旗運動はこの3つの手順で行われています。俵山地区では、約6割の世帯や旅館で取り組んでいます。住民からは、「旗を出したりしまったりすることが日課になっている」との声が上がるほど、この活動が根付いています。郵便局や警察署など、見回りを実施してくれる事業所も数多くあります。

#### 見回りを実施している事業所

- ・俵山郵便局
- ・長門警察署 俵山駐在所
- ・長門大津農業協同組合 俵山支所
- ・NPO法人ゆうゆうグリーン俵山
- ・俵山小学校
- ・俵山中学校
- ・俵山幼稚園
- ・俵山湯の家



### 小中学生も協力

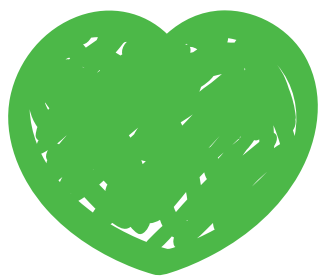
俵山小学校、俵山中学校の生徒から募集したデザインを、それぞれ1点ずつ採用しています。右上の雲は小学校3年生の案、左下のサルは中学校3年生の案です。児童・生徒に参加してもらったことによって、子どもたちの黄色い旗運動への関心が高まりました。登校中に旗が出ていない家があると、積極的に声をかけたり、先生に伝えたりするようになりました。



### 運動の成果

この運動を開始してから、あいさつや会話がぐんと増え、隣近所はもちろん、地域の子どもたちとの輪も広がりました。人とのつながりを強く感じられるようになったという声もあります。高齢者の一人暮らしでも、近隣の人が見ていてくれると思うと心強いようです。また、周りを見渡す機会が増えたことから、悪質な訪問販売などのターゲットになることを防ぐことができるなど、防犯にも役立っています。このようにさまざまな成果が出ていますが、最も大きな成果は、住民がお互いのことに関心を持つことで、地域全体で支え合いの意識作りができたことです。

# 10 柳井市



## みんなが支え合う あたたかい地域づくり ～サロン活動・生活支援活動～

**地域名** 柳井市日積

**団体名** 日積地区生活応援検討会

### 地域概況

主な産業は農業で、米を中心にぶどう、露地野菜、施設野菜などを生産しています。生活面では、路線バスの縮小、商店の減少により、運転免許をもたない交通弱者は買い物や通院、通学等に不便を感じています。そこで、日積地区社協が主体となって、予約制乗合タクシーの運行を平成25年10月より開始。住民の生活交通として定着しています。

人口：1,492人  
世帯数：781世帯  
高齢化率：53%  
(平成29年11月)

### 活動を始めたきっかけ

日積地区地域福祉活動計画では、「ささえあって元気に安心して暮らせる日積をみんなでつくりましょう」というスローガンを掲げています。このスローガンのもと、みんなでささえあって日積で元気に暮らし続けたいという意識が高まってきたことが活動のきっかけです。活動の前には、65歳以上の一人暮らし、75歳以上の二人世帯にアンケートを行いました。その結果、閉じこもりがちな高齢者等のふれあいの場が必要だと分かり、平成28年に日積ほっとサロン（サロン活動）を始めました。さらに、買い物やゴミ出しなどの支援も必要との声があり、同年、日積ほっとネット（生活支援活動）を立ち上げました。

### 活動者のコメント

日積地区生活応援検討会 会長 平岡 美代子

生活支援コーディネーター 上田 代根子

生活応援サポーター 築本 みち子

ほっとサロンに欠かさず参加される人から、「人と会うことが楽しみ」という声があり、やりがいを感じています。これからも活動を続けるためには、若いサポーターを育てていく必要があります。手伝いの気持ちだけで活動することは難しいので、研修会を開くなどして、能力を身につけなければならないと思います。



### 今後に向けて

ほっとサロンについては、サロンに来る人の送迎の問題や、会場の広さに制限があり、今すぐに参加者を増やすことが難しいなかでも、現在サロンに参加していない人を、どうやって外に連れ出すかは引き続き考えていかなければなりません。

ほっとネットについては、いざというときにすぐに支援ができるように、地域住民が本当に必要としている支援は何かを探っておく必要があると思います。

## 活動内容

### 1 日積ほっとサロン

特別養護老人ホーム 四季の里 地域交流ホーム内にて、1・5・9月を除く第1土曜日の、10:30～14:00の間で活動しています。対象は、デイサービスの利用がなく、介護を必要としない人です。口コミで広まって今では毎回50人程度の参加者があります。

#### 午前の部

午前中は、日積地区や柳井市内で活動している団体呼んで、健康体操や音楽鑑賞などをします。この日は、コーラスを中心に、バイオリンやピアノ、手遊びを入れたクリスマスコンサートが開かれました。「普段では体験できないから、勉強になって楽しい」という声がありました。



クリスマスコンサートの様子

#### 昼食

この日の昼食メニューは、炊き込みピラフ、スコッチエッグ、マカロニのチーズ焼き、レタスとカブのサラダ、コンスープ、フルーツカクテルでした。会場でもある四季の里を運営する社会福祉法人最勝会が調理をし、10～12人の生活応援サポーターが、料理の盛り付けを行います。



バランスや彩りが考えられたメニュー

#### 午後の部

午後からは、昔遊びやカラオケ、おしゃべりをします。この日はカラオケに10人が参加し、歌い終わった人には、花束と記念品が贈呈されました。



カラオケの様子

#### 各団体が連携

社会福祉法人最勝会が会場の提供や送迎、食材の提供・調理を行い、市社協が企画をして、日積地区生活応援検討会が実行しています。それぞれの得意分野を活かして、役割分担をしているのが特徴です。

### 2 日積ほっとネット

生活応援サポーターが、ゴミ出し、買い物支援、弁当宅配、話し相手の4つの生活支援を有償（1時間あたり100円）で行うものです。日積地区在住であれば年齢等は問いません。申請があれば、生活支援コーディネーターが調査を行い、その結果、支援が必要となれば生活応援サポーターに協力を依頼する流れになっています。



#### 地域住民に活動を浸透させるために

活動を始めてから1年で2名の利用者に延べ72件の利用がありましたが、困っている人はもっといると思っています。福祉員が、生活支援の必要な人の吸い上げを行ったり、生活支援コーディネーターと民生委員・児童委員が連携したりして、ほっとネットの活動を広めていくことが必要です。

#### 支援への敷居

離れて暮らす家族から見守りを依頼されることがあるのですが、本人が拒否する場合があります。また、支援を受けることを近所には知られたくないと、家族が隠そうとするケースもありました。「支援を受けることは恥ずかしくない」という考えも浸透させていきたいです。

# 美祢市



## 誰もがくつろげる 自由な場所

**地域名** 美祢市秋芳町

**団体名** 秋芳地域リビング

### 地域概況

秋芳町は観光業と農業が盛んな町です。有名なのは、日本最大級の広さを誇るカルスト台地と、みずみずしい秋芳梨。町内にはスーパーがなく、バスの本数も年々少なくなっており、買い物は少し不便です。

人口：約5,000人  
世帯数：約2,000世帯  
高齢化率：43%  
(平成29年10月)

### 活動を始めたきっかけ

住民から、「地域の中の集まる所がなくなった」「サロンも楽しいけど担い手の負担が大きい」などの声があったことがきっかけです。平成28年から、ボランティアの方々の協力を得て社協がミニ縁日やまちカフェ、会食会や報告会などを開いて、秋芳地域リビングのPRを精力的に行い、平成29年2月よりオープンしました。

### 活動者のコメント

秋芳地域リビング担い手(スタッフ)の方々

約1年の間に3ヶ所、リビングを設置しました。リビングへの需要は高まっていると思いますが、男性の参加者が少ないことや、メンバーが固定化されてきていることなどの課題があります。さまざまな人に参加してもらえるように、広報活動にもより力を入れていきたいと思っています。



### 今後に向けて

秋芳地域リビングが、地域で活動する人々をつなぎ、地域にある課題を解決するための取り組みができるような場所になるようにしていきたいです。送迎サービスや買い物、通院支援などにも取り組むことができれば、より地域の皆さんに喜んでもらえるのではないかと思います。

## 活動内容

# 秋芳地域リビング

第1・第3金曜日は秋芳地域福祉センターを、第2・第4水曜日は嘉万老人いこいの家、第2火曜日は別府公民館を開放しています。参加対象は特に設けておらず、年齢・性別・障害等は問いません。1回の参加人数は、天候によっても左右されますが、だいたい10名程度です。

### 何をするかは自由

「サロンは担い手の負担が大きい」という声がかきかけでこの活動は始まったので、毎回の内容は特に決めていません。参加者の持ち寄りで活動しています。趣味や特技を活かせること、おしゃべりをしながらできることをやっています。この日はクリスマスの飾りを作りました。これまでは、レザーのカップホルダーを作ったり、石灰岩を使ったスタンプを作ったりしてきました。参加者からは、「同じ年代の人と話ができて楽しい」「雑談が情報交換にもなって、見守りにもつながっている」との声がありました。



開放日には旗を立てて知らせています



クリスマスの飾り作り



石灰岩のスタンプを押したカップホルダー

### 好きな時間に来て、好きな時間に帰ってOK

開放時間は11:00～14:00と決めています。いつ来てもいつ帰ってもいいようにして、なるべく敷居が下がるようにしています。お昼をまたぐように時間を設定しているのは、ランチタイムも楽しく過ごしてほしいとの思いから。12時になったら、参加者でテーブルを囲んでお弁当を食べます。普段は1人で食べていても、みんなで食べるとなれば作りがいもあります。この日は、参加者の1人が自宅で作ってきた漬物をふるまう様子もありました。



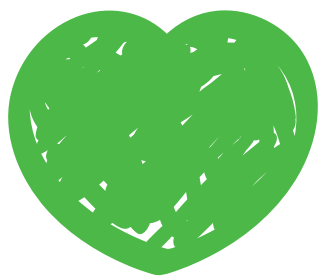
お弁当の様子

### 広報活動

秋芳地域リビングの存在をより多くの人に利用してもらうために、市社協だよりやFacebook、音声放送、チラシなどを使ってPRをしています。Facebookの更新頻度は高く、Facebookをきっかけにリビングへ足を運んでくれる方もいらっしゃいます。



# 12 周南市



## 長年培った技術や経験を活かして 高齢者が困っていることを手助け

地域名 周南市八代

団体名 便利屋さん

### 地域概況

本州唯一のナベヅルの飛来地として知られる八代地区。ツルはもちろん、ツルに関する文化財（神社や碑など）も大切にしています。地区内にはお店が1ヶ所しかなく、車やバスで隣の市まで出かけているのが現状です。診療所は週に1度の開診ですが、地域の人から喜ばれています。もちろん、急病や大きな病気の際は、周南市内まで行かなければなりません。

人口：693人  
世帯数：332世帯  
高齢化率：49%  
(平成30年1月)

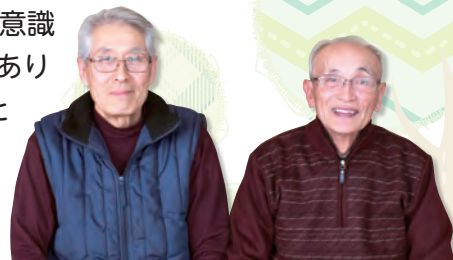
### 活動を始めたきっかけ

平成24・25年頃、高齢者がはしごにのぼって木の剪定をしているところを見かけた福祉員から、「高齢者を手助けするような組織を作ることができないか」と地区社協に相談があったことがきっかけです。その後便利屋さんの運営委員会を立ち上げ平成26年は試行期間に充て、担い手を探したり、一人暮らしの高齢者や二人暮らしの後期高齢者にアンケートをとったりしました。平成27年4月から本格的に活動を開始しています。

### 活動者のコメント

八代地区社会福祉協議会 会長 徳本 仁  
副会長 浅野 忠臣

活動するときは、人間関係を大事にするように注意しています。この意識が依頼者に伝わっているからなのか、これまで苦情が寄せられたことはありません。また、依頼者から「〇〇さんをお願いしたい」と指名されることもあります。一人暮らしの高齢者が、便利屋さんと交流することで明るくなっていく姿を見ることは、私たちの活動のやりがいになっています。



### 今後に向けて

現在、便利屋さんでは車での移送支援は行っていません。しかし、買い物や通院のために、送迎をお願いしたいという声があるので、対応できるようにしたいと考えています。また、「高齢者からお金をもらうことに抵抗がある」と、担い手から意見がありました。依頼にかかる費用を、いづらか社協に助成してもらうことができないか検討していきます。

## 活動内容

# 便利屋さん

簡単な家屋の修理・家財道具の修理・電気関係・水道の故障・庭の清掃・家の周囲の草刈りなど、家庭生活において困っていることを支援していくもので、見守り活動の一環になっています。元大工さんや電気屋さん、瓦修理経験者なども担い手となっており、これまでの仕事などで培った経験や知識、技術を生かして専門的なサービスも提供できるのが特徴です。対象は、一人暮らしの高齢者や、後期高齢者夫婦ですが、対象者以外からも希望があれば応じています。金額は、30分500円で、現状は依頼者の全額負担です。

### 便利屋さん に依頼する流れ

依頼者が便利屋さん  
に連絡するシステムは、次の2通りが原則です。

- ① 依頼者 → 福祉員または民生委員  
→ 運営委員 → 便利屋さん
- ② 依頼者 → 運営委員 → 便利屋さん

しかし、便利屋さんを利用するうちに、依頼者と便利屋さんとの間で人間関係ができ、運営委員などを通さずに、依頼者が直接便利屋さん  
に頼むケースが出てきました。運営委員が活動状況の把握ができないデメリットもありますが、裏を返せば、気軽に依頼できるくらいの関係づくりができたと言えます。



蛍光灯の蛍光管交換



宅地周辺の木の伐採



畑の整備



車椅子用のスロープ設置



### 活動の課題

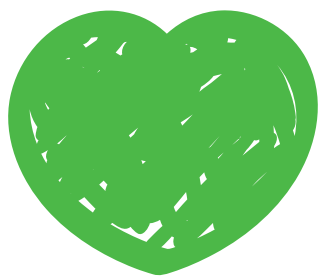
#### 担い手の不足

チラシを作成して募集をかけた  
り、運営側から声をかけたりして担い手を集め、現在は8人で活動しています。依頼の件数は季節によって変動しますが、月平均4~5件です。専門性が高い仕事は、限られた人に集中してしまったり、担い手の人数不足により、同じ人に仕事が集中してしまったりすることが課題として挙げられます。1つの仕事を2~3人で行うなど、工夫が必要です。

#### 便利さんのPR

便利さんの活動は浸透してきていますが、依頼者が固定されていることは課題です。チラシや地区社協だよりなどでのPRを続けることはもちろん、それに加えて、福祉員や民生委員が対象者の家を訪問するときに、便利さんのことを話題にしてくれたら、さらに浸透すると思います。

# 13 山陽小野田市



## 施設を借りて開催する 地域住民と入所者がつながるサロン

**地域名** 山陽小野田市西高泊大塚

**団体名** サロンおおつか

### 地域概況

大塚地区は住宅同士が密着しているため、コンパクトにまとまっている地区。工業団地にも隣接しています。スーパーやホームセンター、病院もすぐ近くにあるため、暮らしやすい場所ですが、核家族、少子高齢化が進み、高齢での独居、夫婦二人暮らしに該当する人たちが増えている状況です。

人口：363人  
世帯数：156世帯  
(平成30年1月1日)

### 活動を始めたきっかけ

代表が民生委員として参加していた、地域密着型介護事業所「そらり」の運営推進会議の中で、そらりから「災害発生時、入所者の避難に際して地域の方々に手を貸していただきたい。そのお返しとして、施設側で何かお手伝いできることがないだろうか。」という話がきっかけで、そらりに併設する、サービス付き高齢者向け住宅「スカイラ」の食堂で、サロンを行うことにしました。

### 活動者のコメント

サロンおおつか 代表 波多野 昭世

サロンの必要性を感じながらも、適切な開催場所がなく、踏み切れずにいましたが、施設の方の御厚意ですばらしい場所を提供していただき感謝でいっぱいです。お陰様で地域住民だけでなく入所者との交流も深まり、楽しい仲間の輪が広がっています。



### 今後に向けて

「サロンおおつか」が、みんなで集まって楽しいおしゃべりができる場となっているので、これからも月1回の活動を継続していくつもりです。サロンでは、参加者全員が取り組むことができ、楽しむこともできるものをするようにしています。参加者から「こんなぬりえや、楽しい替え歌があるよ」と情報をもらうこともあるので、それらも活動に取り入れていきたいです。

## 活動内容

### 1 サロン活動

平成28年7月からサロンを開始しています。開催日は、毎月第3火曜日の14:00～15:30で、対象は、大塚地区に住んでいる人と、スカイラの入所者です。年齢は70歳以上としていますが、特に制限をしていません。民生委員や福祉員、自治会長が担い手として、ボランティアでサポートをしています。

#### サロンの流れ

##### ①体ほぐしの体操



参加者が集まったら、ラジオ体操を全員で行って体をほぐします。

##### ②和歌の音読となぞり書き



この日は、季節に合った2首の和歌をみんなで音読して、なぞり書きをしました。

##### ③都道府県名ビンゴゲーム



マスの中に都道府県名を書いていくので、脳の活性化にもなります。

##### ④コーヒータイム



コーヒーとおやつを食べながら、参加者同士話します。

##### ⑤お坊さんめくり



百人一首の絵札を使ったゲーム。とても盛り上がりました。

##### ⑥季節の歌



季節に合った曲をみんなで歌います。この日は、「花は咲く」を歌いました。

※他にも、ことば遊びや紙芝居、ぬりえ、お手玉、トランプ、数独など毎回違うゲームや遊びを企画しています。

#### サロン会場は施設の食堂

サロンは、スカイラの食堂が会場になっています。スカイラは、2014年にできた施設で、2階にある食堂には大きな窓から光が差し込みます。冷暖房設備も整い、参加する方も運営する方も、快適に過ごすことができる場所です。

#### 活動の課題

自治会より年間1万円の補助金をいただいております。それを年間の利用料（光熱水費）として施設に納めています。気軽に参加してもらうため参加者からは1回100円の参加費を徴収しており、その範囲内でやりくりすることや、参加者の年齢差（70歳代から90歳代）、脳年齢差、性差などに配慮し、みんなが楽しく生き生きと取り組める活動をいかに仕組んでいくかが目下の課題です。

### 2 「サロンおおつか通信」の発行

2ヶ月に1度、2回分のサロンの活動内容や、次回のサロンの開催日を掲載した「サロンおおつか通信」を発行。偶数月最初の回覧板と一緒に回しています。他のお知らせも入っているので、その中でも目を惹くように、カラフルにしたり、写真を使用したり工夫しています。発行の目的は、サロンでどんな活動をしているのかを地域にお知らせすること。通信を読んで興味を持った人が、サロンに参加してもらえればと思います。



代表が作る「サロンおおつか通信」

# 14 周防大島町



## 年間約100件の利用がある 有償助け合いサービス

**地域名** 周防大島町屋代

**団体名** 屋代地区社会福祉協議会

### 地域概況

上は屋代ダムよりも上流から、下は沿岸部付近まで東西に長い地区。交通網は、バス（ワゴン車）が屋代川沿いを通るルートのみで、本数も少ないため、自家用車が必須です。高齢化が進んで、80・90代が多い地区ですが、長年暮らしている人が多く、お互い顔見知りのため、住民で見守りができています。

人口：1,142人  
世帯数：606世帯  
高齢化率：55.78%  
(平成29年11月)

### 活動を始めたきっかけ

周防大島町社協が住民からの依頼に応じて、草刈りなどの活動をしていましたが、住民の地域福祉活動への推進を図るため、平成15年頃から屋代地区社協が有償助け合いサービスとして行うようになりました。そのほか、高齢者が集まって会話や交流を楽しむふれあいの集いは平成2年から始め、平成19年頃からは、敬老会にも関わるようになりました。

### 活動者のコメント

屋代地区社会福祉協議会 会長 村田 満晴

在宅有償サービスに関しては、協会員がもっと増えてほしいと思っています。特に若い人に加わってほしいです。ふれあいの集い・敬老会に関しては、参加した人に「楽しかった」と言ってもらえることが活動の励みになっています。ただ、普段出てこない人をどうやって引っ張り出すかは課題です。「行ってみたい」と思ってもらえるように、より魅力ある場所作りをしていきたいです。



### 今後に向けて

平成30年の3月に、80歳以上の一人暮らしの人を対象にした食育教室を開催します。現在、周防大島町では「ちょび塩運動」に取り組んでいるため、対象者に減塩への意識をもってもらうことが目的です。食育教室当日は実際に、塩分控えめで作った料理を食べてもらう予定にしています。さらに今後は、子ども達にもこの教室を開いていきたいと考えています。

## 活動内容

### 1 有償助け合いサービス

一人暮らしの高齢者を主な対象として、有償助け合いサービスを行っています。内容は、田畑の草刈りや庭木の剪定、石垣の補修、水道のパイプの修理などです。価格は、シルバー人材センターに頼む場合と同じぐらいで設定しています。利用料収入の一部は、地区社協の拠点の運営費などに使用しています。

#### サービスの流れ

地区社協のコーディネーターが利用者からの依頼を受け、協力会員を派遣するシステムです。住民が協力会員となり、利用者へのサービスを提供しています。現在、協力会員として5名活動しています。口コミで広まって依頼件数が年々増加し、今では年に約100件の依頼があります。基本的に地区内に住んでいる人が対象ですが、地区外からの依頼も増え、可能な限り対応しています。

#### 利用者の声

草刈りをお願いしている女性からは、「高齢者や女性にとって草刈りは大変な作業なので、代わりにやってくれて助かるし、顔を知っている人にやってもらうので安心感がある」といった声が聞かれました。

#### サービスを実施する際の工夫

基本的には、利用者からの依頼を随時受けて、サービスを行う形をとっていますが、別の所に住んでいて、周防大島の家は空き家という人もいます。その場合、家の状況が分からないため、草刈りなどの依頼を随時行うことは難しいです。そこで、ニーズに合わせた契約（年2回、家の周りの草刈りを行うなど）もできるようにして、サービスを利用しやすいように工夫しています。また、作業前と作業後の写真を撮影して、成果を報告する工夫もしています。

#### 活動のやりがい

「有償助け合いサービスを使って良かった」と利用者から言ってもらうことは、やはり励みになります。一度だけでなく、複数回サービスを利用してくださる人もいて、サービスが住民にとって喜ばれていると感じています。



剪定の様子

そのほか、屋代地区社協では、次のような活動もしています。

### 2 ふれあいの集い・敬老会

年に1回、ふれあいの集いを開催しています。70歳以上の一人暮らしの高齢者と80歳以上の全ての高齢者が対象です。平成29年度は約120人が参加し、幼稚園児・小・中学生のステージ発表・オレオレ詐欺の寸劇・日本舞踊・フラダンス・三味線・カラオケなどを楽しみました。また、町が主催の敬老会では、式典後のレクレーションの企画をしています。

### 3 古紙回収

年に2回、古紙回収を行って運営費に充てています。住民が協力的なおかげで、平成28年度は年間で約8万6千円分の古紙を回収することができました。

### 4 屋代地区需給調整会議

月に1回、2時間程度、関係者が集まって会議を開いています。この日は、ふれあいの集いの反省と、食育教室に向けた調整が主な内容でした。



会議の様子

# 15 和木町



## 季節を取り入れた活動をしている 町内で最後に開設したサロン

地域名 和木町中組

団体名 サルーン中組

### 地域概況

和木町は、学校給食の無料化や、中学校3年生までの医療費の助成など、独自の施策をとっている地域です。中組地区は、集会所や役場、学校、幼稚園、保健相談センター、社協などの公共施設がそろっているため暮らしやすく、高齢者も若い人も住んでいます。

人口：298人  
世帯数：128世帯  
(平成29年12月)

### 活動を始めたきっかけ

町内で中組地区のみサロンがなく、「サロンがあったらいいのに」と住民から声が上がっていたことや、独居高齢者のひきこもり防止のために、活動を始めました。平成20年6月に、ボランティアと福祉員を中心に立ち上げました。現在和木町には約16のサロンがありますが、サルーン中組が町内で最後にできたサロンです。立ち上げにあたっては、他のサロンから情報収集を行い、参考になることは積極的に取り入れました。

### 活動者のコメント

サルーン中組 代表 元川 裕子

参加者から「楽しかった」「料理もおやつもおいしかったよ」と、褒めてもらえることが活動の励みになっています。より参加者に満足してもらうために、年間のスケジュールを立てるときには、前年と同じ内容にならないように工夫しています。季節を意識した活動やメニューを考え、参加者に喜んでもらっています。



### 今後に向けて

町内の他のサロンとの交流を持ちたいと思っています。サロンに来るのが精一杯の参加者もいるので、まずはスタッフだけの情報交換から始めようと考えています。また、今よりも参加者が増えると運営が難しくなってしまうので、今の規模を維持して、充実した活動を継続していきたいです。

## 活動内容

### 1 サロン活動

毎月第2水曜日はお茶会、第4水曜日は食事会をベースに、手作業やレクリエーションをしたり、講師を招いて健康講話を聞いたりしています。対象は、中組地区に住んでいる70歳以上の一人暮らしの人で、毎回20名弱の参加があります。

#### 季節を意識した活動

このサロンの特徴は、季節を取り入れた活動をしていること。この日は、12月の活動だったため、お正月に飾ることができるフラワーアレンジメント作りを行いました。他にも、夏の時期にはホウ酸団子作りをしたり、1月のお茶会ではぜんざい会を開いたりしています。また、平成29年に開催した健康講話では、外部講師をお招きし高血圧や糖尿病といった、参加者の関心が高くて身近な病気について、話をしてもらいました。



#### 旬の食材を使った食事やおやつ

季節感が出ているのは、活動内容だけではなく、ボランティアのスタッフが準備する食事やおやつにも、季節の野菜や果物を使っています。この日のメニューは、パウンドケーキとみかん、スタッフ手作りのサツマイモを使った茶巾絞りでした。特に食事会のときは、レシピや作り方の話で会話が弾んでいます。



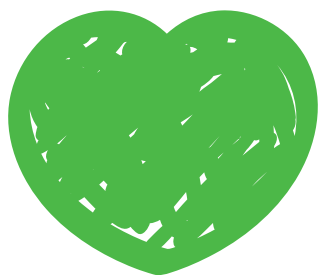
#### 参加者の声

参加者からは、「ここに来てみんなと話をするのが楽しくて、元気になる」「水曜日に用事があることもあるけど、サロンは休まないようにしている」などの声がありました。

### 2 町外研修

引きこもりがちな高齢者を外に連れ出すことを目的に、年に2回、バスを利用して町外へ親睦研修旅行に行っています。平成29年は4月に上関方面へ、10月に下松方面へ行きました。参加者の高齢化が進み、遠方ばかり行くことはできないため、近場と遠方を組み合わせています。

# 16 上関町



## 昼食やコーヒーを楽しむ 会話がはずむサロン

**地域名** 上関町室津

**団体名** 元気の出る会（室津いきいきサロン）

### 地域概況

室津地区は上関町の中心地区です。町内で最も人口の多い地域で小さな集落4地区で構成されています。地区内に商店街はありませんが、2014年に上関大橋のすぐそばに道の駅「上関海峡」ができ、地元住民の多くはここで買い物をしています。

人口：1,050人  
世帯数：461世帯  
高齢化率：約50%  
(平成29年10月)

### 活動を始めたきっかけ

高齢になると出かける場所が少なくなり、さらに地域住民の交流の場であった行事（お祭り等）も少なくなったことから、社会的孤立を抱えた人が増加してきました。民生委員として見守り活動している中で、特に一人で食事をするのがつらいという方が多かったので、高齢者の引きこもりを予防し、みんなが集まることができる場所を作ろうと、平成13年に社協と一緒に企画し、平成14年4月より活動開始しました。最初は弁当を頼んでいましたが、サロンで作るようになりました。参加者からは「月に1回集まるのが一番の楽しみ」との声があり、クチコミで参加者が増えていきました。

### 活動者のコメント

元気の出る会（室津いきいきサロン）

高松 満子・松藤 菁子・山方 由美子

参加者の笑顔を楽しみに活動しています。朝からずっと調理をしているので、きついと思うときもありますが、皆さんがいつも喜ばれるので作る方もうれしくなります。皆さんの喜ぶ顔を見ることができるのが、私たちの活力になっています。



### 今後に向けて

現状の活動を維持していくことが一番大切ですが、サロン外の人との交流の機会も設けています。年2回（春と秋）、他地区（志田地区）にあるサロンの人に来ていただいたり、こちらから訪問したりして、交流をしています。また、年1回（8月）、小学生（放課後子ども教室の児童）との交流会も行っています。

## 活動内容

毎月第2金曜日、上関町総合文化センターに参加者が集合し、レクリエーションをした後で、昼食をみんなで一緒に食べています。参加者は、比較的元気な高齢者（自力で会場まで来ることができる高齢者）で80歳以上が対象となります。毎回、13～17人の方が参加されています。社協職員がサロンの運営、レクリエーションの企画をして、ボランティアの方が住民へサロンの周知、当日の食事の準備、レクリエーションの手伝いをしています。

### 1 レクリエーション

トランプやカルタ、体操、ゲーム、折り紙など、毎回、違うレクリエーションを企画しています。この日は頭の体操として、文字が書かれた紙をつなげて動物の名前を作るゲームをみんなで行った後、体の体操として、2チームに分かれ室内でグランドゴルフを行いました。



### 2 昼食

品数や使用する食材の種類をできるだけ多くするように献立が考えられています。この日は、いなり寿司、具たくさんコロッケ、けんちょうなどが振る舞われました。調理したボランティアさんが「コロッケには何の食材が使われているでしょうか？」と聞きながら、食事の場を盛り上げていました。



### 3 食後のコーヒーとおやつ

食後にコーヒーとおやつも用意されるのが、このサロンの特徴。この時間を楽しみにしている人も多くいらっしゃいます。昼食と一緒に食べるだけでなく、コーヒータイムを設けることで、みんなが話しやすい環境を作っています。この日は、小豆あん、お麩などを使った豪華なパフェでした。



### 4 誕生日のお祝い

誕生月の参加者には、みんなでお祝いをします。該当者の発表の後、記念品がプレゼントされ、参加者みんなでお祝いの言葉と拍手で祝いました。この記念品は、立ち上げ時から参加されている96歳の参加者が作った手作りの品で、年によって異なった品を用意されています。





## 住民が情報を出し合って作成する 支え合いマップ

**地域名** 田布施町

**団体名** 田布施町社会福祉協議会

### 地域概況

町内に働く世代は入ってきているものの、全体として高齢化が進んでおり、一人暮らしの高齢者や近所との関わりが少ない人が増えています。スーパーや駅、医療機関などは街中に密集しているため、中心部から離れた場所で生活している人は、移動手段や移動にかかる費用の面で苦慮しています。

人口：15,494人  
世帯数：7,029世帯  
高齢化率：約35%  
(平成29年12月末)

### 活動を始めたきっかけ

田布施町では、一人暮らしや高齢者世帯が増加しており、行政や公的機関の支援だけでなく、地域の自治会または班での住民同士の見守りや支え合いが、より重要となっています。そこで、福祉の輪づくり運動「小地域福祉活動強化事業」の一環として、自治会長・民生委員・福祉員を中心に、情報共有の場を設けようと、住民支え合いマップの作成をすることにしました。

### 活動者のコメント

田布施町社会福祉協議会 事務局長 田縁 和明  
福祉活動専門員 桂 義宜

田布施町に住んでいる働く世代にも、マップの作成に参加してほしいです。また、自治会によっては、大きな工場があるところもあります。対象者が徘徊していたら声をかけるなど、企業も巻き込んで見守り活動ができればと思います。さらに、災害時の避難場所などを示した、防災用のマップとして流用することも検討していきたいです。



### 今後に向けて

5年かけて5地域のマップを作っているのですが、平成30年度は、最後の5か所目の地域、西田布施でマップを作成する予定です。西田布施は、街中と山側の地域があるため、地域差が大きくなるのではないかと考えています。住民同士で支え合うという根本的なことは変えませんが、街中はアパートなどに住んでいて、自治会に未加入の人も多いため、対応を考えていきたいです。

## 活動内容

### 1 住民支え合いマップの作成

平成26年度から、1年に1地域のペースでマップを作成中です。自治会ごとに集まってもらい、まず、対象となる人のところにシールを貼ります。それから、気になる点をふせんに書いて情報を追加したり、見守りをする人がいれば矢印で示したりして仕上げていきます。できあがったマップは社協で保管しますが、社協でも状況把握のために活用しています。マップの更新は年1回で、最初の作成時も更新時も、社協の職員が携わっています。また、マップの整理には県内の大学の先生や生徒にも協力してもらっています。

#### マップに書き込む内容

- 高齢者ひとり暮らし（原則65歳以上）
- 高齢者二世帯（原則75歳以上）
- 気になる方
- 支え手となる方（上の3つに該当せず、矢印がひける方）

関係性 (一方向) →  
(双方向) ↔

関係の強弱 常時の関わり → 太線  
時々関わり → 細線

空室があれば（空）と記入をお願いします。

#### 対象年度と該当地域

年度	地域名
平成26年度	まりふ 麻里府
平成27年度	おごう 麻郷
平成28年度	東田布施
平成29年度	じょうなん 城南
平成30年度	西田布施

#### マップ作成のメリット

マップを見ながらシール貼りなどの作業をすることで、漏れなく情報を記入できると同時に、情報共有にもつながります。参加者同士が連絡先を交換し、気になる方への見守りをして、情報を共有しようと話す姿もありました。空き家の状況や自治会に未加入の人の様子など、地域に住んでいる人だからこそ把握している貴重な情報を、社協や行政も得ることができます。

#### 活動の課題

個人情報の取り扱いには苦勞しています。参加者も、どこまで情報を提供してもいいのか悩まれることは多いですが、井戸端会議のような考え方で、自分が知っていること、最近気になることを気軽に話してもらおうようにしています。また、マップの作成を周知できていないことも課題なので、自治会から、「マップを作成したい」と声があがるくらいに浸透させることができればと思います。



1つのマップを囲んで情報を出し合います



できあがったマップは情報でいっぱいになります

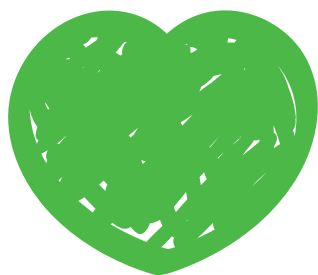
### 2 報告会

マップが完成したら、地域ごとに完成報告会を実施。マップの情報をデータ化したものを示し、集計結果をお知らせします。報告会で最も力を入れていることは、黄シールが貼られているにも関わらず、周囲との付き合いがない対象者をどのように支援していけばよいかを考えてもらうことです。社協や行政などの専門的な支援が必要な場合もありますが、支援の形はそれだけではありません。地域で見守ることで、問題解決ができる場合もあることを伝えています。



報告会の様子

# 18 平生町



## 高齢者の見守り活動 ～誕生日カードでコミュニケーション～

地域名 平生町

団体名 平生地区社会福祉協議会

### 地域概況

平生町は、年間を通じて雨が少なく、温暖で暮らしやすい地域で、瀬戸内海国立公園を含む美しい自然に恵まれています。古墳や遺跡など多くの歴史的文化財も存在し、「歴史と文化のまち」として知られています。

人口：6,300人（平成29年9月30日）  
世帯数：2,877世帯（平成29年9月30日）  
高齢化率：33.92%（平成29年4月1日）

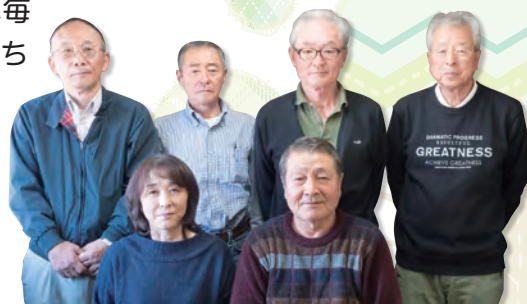
### 活動を始めたきっかけ

平成21年に、平生、堅ヶ浜、宇佐木の各地区で展開されていた福祉の輪づくり運動推進委員会が統合されて、平生地区社協が設立されました。地区社協設立と同時にシンボリック的の事業として誕生日カードの配布を続けています。平生地区社協は民生委員とふれあい推進員、合わせて51名で構成され、お誕生日カードをはじめ、様々なかたちで地区内の見守り支え合い活動を展開されています。

### 活動者のコメント

平生地区社会福祉協議会 会長 村尾 哲男

誕生日カードを作成するのは毎月第3水曜日ですが、私たちは毎週水曜日に集まって、情報交換や、サロンや研修旅行の計画・打ち合わせを行っています。誕生日カードを渡した方が、「今までのカードもちゃんと保管しとるよ」と笑顔で言ってくれたり、サロンに参加した方からお礼の手紙が届いたりすることが、活動の励みになっています。



### 今後に向けて

誕生日カードは、「毎年この日を楽しみにしとるんよ」という声が多くの方から聞かれるので、これからも長く続けていきたいと思っています。いきいきサロンは、レクリエーションのスキルを高めて、参加者により楽しんでもらいたいと思っています。また、さまざまな方に参加してもらうため、体の不自由な方への配慮にも力を入れていきたいです。

## 活動内容

### 1 誕生日カードの作成・配布

#### 作成

毎月第3水曜日の午前中に、地区社協理事やコーディネーターが地区社協の事務所に集まって、翌月分の誕生日カードを作成しています。対象となるのは、65歳以上の一人暮らしの方と、75歳以上の二人暮らしの方です。多い月は70人以上になることもあり、平成29年度は年間546枚を作成しました。

誕生日カードには、2つの特徴があります。1つは、季節の花を描いた絵葉書載せていることです。絵葉書は、平生地区で開かれている絵手紙教室のメンバーに毎月作品を提供してもらっています。もう1つは、平生町の名所やイベントの写真を入れていることです。掲載する写真は毎年違うものになっています。他に、お祝いの言葉はもちろん、担当の民生委員の連絡先も記入して、いざというときにすぐに連絡が取れるようにしています。

#### 配布

誕生日当日に、民生委員が直接自宅に渡しに行きます。ただ渡して終わりではなく、その場で会話をしたり、暮らしぶりや健康状態の確認をしたりしています。見守り活動として誕生日カードの配布を始めたので、コミュニケーションを取るこそが使命だと考えています。



そのほか、平生地区社協では、次のような活動もしています。

### 2 いきいきサロン

誕生日カードをお配りしている方を対象として、地区内で孤立している人が1人でも少なくなるように、年2回いきいきサロンを行っています。この日は、アコーディオンの演奏会や地区のマジッククラブによるマジックショーなどを披露しました。さらに、参加者全員で、千日紅のドライフラワーでリース作りにも取り組み、参加者の方にも好評でした。



### 3 研修旅行

年に1回、地区社協会員を対象に研修旅行を行っています。平成29年度は、岩国市の「いわくに消防防災センター」で防災について学び、福祉施設の見学をさせていただきました。研修後は、概要をまとめたものを参加者に配り、学んだことを忘れないように工夫しています。



# 19 阿武町



## 自宅を開放した 住民が集まりやすいサロン

**地域名** 阿武町奈古釜屋

**団体名** ふれあいいきいきサロン いこい会

### 地域概況

海と緑が豊かな阿武町奈古のなかで、最も住民が多いのが釜屋地区ですが、65～75歳ぐらいが多く、若い世代は少ないです。近くには道の駅やスーパーがあるため、買い物には困りません。主な交通手段は自転車という高齢者が多く、町外に出るときはバスや自動車を利用しています。

人口：164人  
世帯数：64世帯  
高齢化率：52.41%  
(平成29年12月)

### 活動を始めたきっかけ

平成14年7月に代表の奥様が亡くなり、ひとりでしんみりしていると「うつ」になりそうで、自分と同じ思いをしている人が他にもいるかもしれないと感じたことがきっかけで、閉じこもりがちになる高齢者が外出できる機会をつくろうと地区住民に声をかけ、平成15年1月からサロン活動を始めました。奥様がカラオケの指導をしていたことから、最初の年はカラオケをしていましたが、参加者が減ってきたこともあり、趣味でそろえた映画の機材を活用して、映画鑑賞会も行うことにしました。

### 活動者のコメント

ふれあいいきいきサロン いこい会 代表 白上 憲治

体が元気に動くうちは、人とのつながりを作っておくことの大切さには気付きにくいものです。日頃からサロンなどで顔を合わせていれば、しばらく見かけないと心配になります。元々会うことがなければ、関心も薄くなります。近隣の人と親しくなることは、自然な見守りになります。



### 今後に向けて

課題は、男性の参加者がいないことと、地区の中に退職後すぐに手が空く人が少ないので後継者を見つけるのが難しいことです。今後は、周辺のサロンと合同で開催したり工夫をして、サロン活動を継続していきたいです。

## 活動内容

### 1 サロン活動

開催日は、毎週月曜日（第2月曜日は除く）の9：00～13：00です。現在の参加者は大体6～7人です。

#### 自宅を開放したサロン会場

参加者が集まるのは、白上さんの自宅。より快適に過ごしてもらうために、2度の増築を行いました。認知症対策として、トランプや間違い探し、パズルなどを楽しんでいます。お昼になると、調理師免許を持つ白上さんが用意したご飯を食べます。この日のメニューは、牛丼と2種類のつみれが入ったすまし汁でした。また、参加者の中で当番を決めて、お茶の準備をしたり、昼食の準備を手伝ったりしています。また、月1回社協や町に出前講座を依頼し、認知症予防の講習等を受けています。



家に集まると、まずは血圧・体重・体温を測って記録します



にぎやかであたたかい昼食

#### 本格的な機材を使ったカラオケ・映画

白上さんの自宅には、プロジェクターや最新のカラオケの機材が整っています。カラオケのテープは500本以上あり、映画も、戦前の作品から話題作まで、幅広く350本以上そろっています。昔の映画を見ながら、その当時の話をして楽しんでいます。



映画鑑賞の様子

#### 世間話のなかにもヒントが

サロンに集まって雑談をすることも大切です。「あそこに新しいお店ができた」「最近〇〇さんが体調を崩したみたい」など、自然と情報交換になります。特に、地区内の方の状況を知っておくことは、見守りにもつながります。



世間話も盛り上がります

### 2 にこにこ会

平成29年4月、阿武町奈古にある4つの老人会を運営しやすくするために、合同で活動する「にこにこ会」を作りました。設立前に、にこにこ会で何がしたいかアンケートをとったところ、「健康に従事したい」との声が多くあったため、健康体操をしたり、出前講座を受けたりしています。いこい会のサロンには来なくても、にこにこ会には参加する人もいるため、新たな地域のつながりの場になっています。

### 3 防災マニュアルの作成

平成21年には、釜屋地区で防災マニュアルを作り、住民説明会も実施しました。避難場所にまわって移動するための集合場所を決め、家にいる時間帯や健康状態などの聞き取りをして名簿を作っています。防災のために作った名簿ですが、見守り用としても活用することができました。



## 山口県内の市町社会福祉協議会一覧

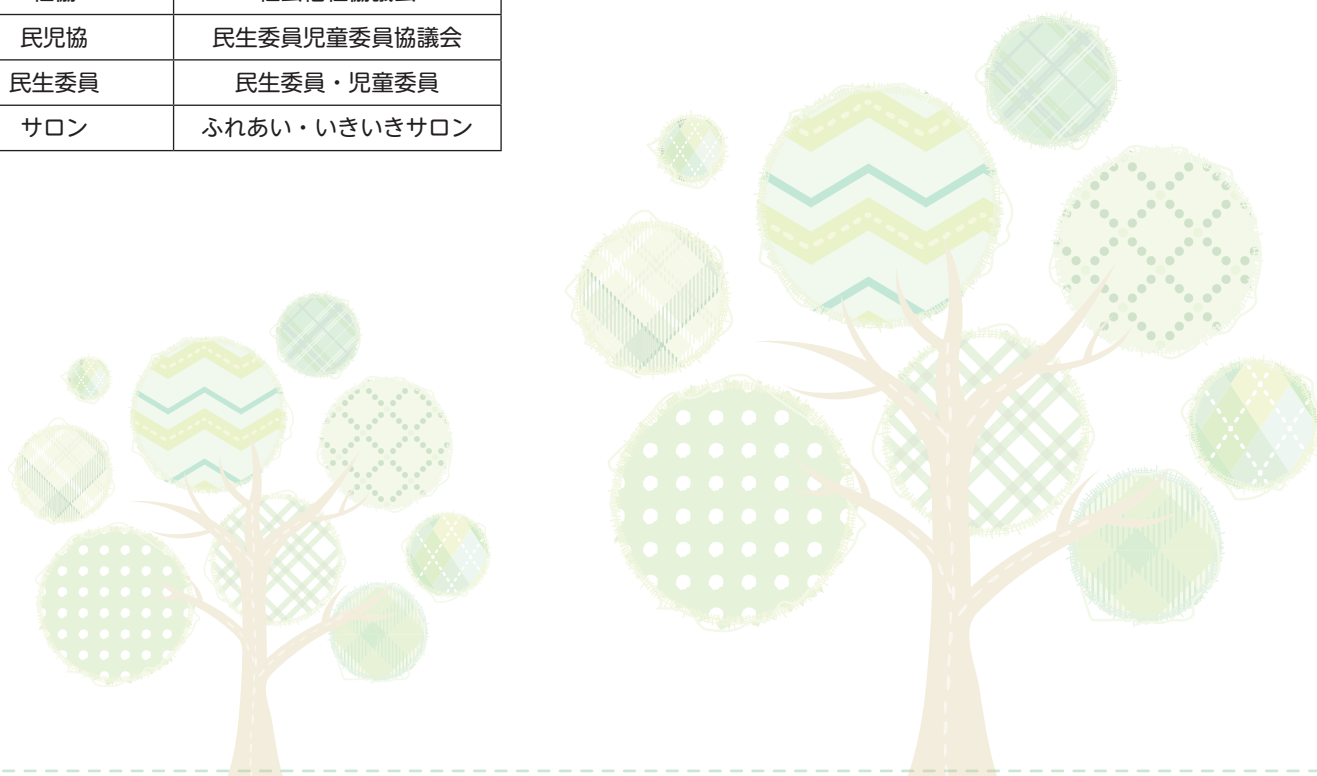
市町名（支部・支所）		郵便番号	所在地	電話番号
下関市	本所	751-0823	下関市貴船町三丁目4番1号 下関市社会福祉センター内	083-232-2001
	菊川支所	750-0317	下関市菊川町大字下岡枝188番地	083-287-0126
	豊田支所	750-0424	下関市豊田町大字矢田194番地	083-766-0641
	豊浦支所	759-6301	下関市豊浦町大字川棚4892番地1	083-774-1122
	豊北支所	759-5511	下関市豊北町大字滝部3140番地1	083-782-1745
宇部市		755-0033	宇部市琴芝町二丁目4番20号	0836-33-3131
山口市	本部・北部支所	753-0035	山口市上堅小路89番地1 山口しあわせプラザ内	083-924-0543
	南部支所	754-0002	山口市小郡下郷1437番地6	083-941-5377
	秋穂出張所	754-1101	山口市秋穂東6570番地 秋穂歴史民俗資料館内	083-984-2549
	阿知須出張所	754-1277	山口市阿知須2740番地	0836-66-2000
	徳地出張所	747-0231	山口市徳地堀1744番地	0835-52-0100
	阿東出張所	759-1421	山口市阿東地福上1697番地	083-952-0294
萩市	本所	758-0041	萩市大字江向356番地3 萩市総合福祉センター内	0838-22-2289
	田万川事務所	759-3112	萩市大字下田万1036番地	08387-2-0277
	須佐事務所	759-3411	萩市大字須佐4570番地5 萩市須佐総合事務所内	08387-6-2204
	むつみ事務所	758-0304	萩市大字吉部上3201番地8 萩市むつみ地域世代間交流拠点施設内	08388-6-0237
	福栄事務所	758-0212	萩市大字福井下3994番地1 萩市福栄コミュニティセンター内	0838-52-0338
	川上事務所	758-0141	萩市川上4462番地1 萩市川上総合事務所内	0838-54-2645
	旭事務所	753-0101	萩市大字佐々並2494番地2	0838-56-0856
防府市		747-0026	防府市緑町1丁目9-2 防府市文化福祉会館内	0835-22-3907
下松市		744-0022	下松市大字末武下617番地の2 下松福祉センター内	0833-41-2242
岩国市	本部・岩国支部	740-0018	岩国市麻里布町7丁目1番2号	0827-22-5877
	由宇支部	740-1428	岩国市由宇町中央一丁目8番35号	0827-63-3022
	玖珂支部	742-0326	岩国市玖珂町4961番地	0827-82-3231
	本郷支部	740-0602	岩国市本郷町本郷2094番地	0827-75-2355
	周東支部	742-0417	岩国市周東町下久原626番地8	0827-84-1100
	錦支部	740-0724	岩国市錦町広瀬6487番地の4	0827-72-2211
	美川支部	740-0502	岩国市美川町四馬神1057番地 美川コミュニティセンター内	0827-76-0069
	美和支部	740-1232	岩国市美和町西畑135番地1	0827-96-0600
光市		743-0011	光市光井二丁目2番1号 光市総合社会福祉センター内	0833-74-3020
長門市	長門支部	759-4101	長門市東深川1321番地1	0837-22-8294
	三隅支部	759-3803	長門市三隅下518番地	0837-43-2851
	日置支部	759-4401	長門市日置上5914番地3	0837-37-3937
	油谷支部	759-4503	長門市油谷新別名803番地	0837-32-0931
柳井市		742-0031	柳井市南町三丁目9番2号	0820-22-3800
美祿市	本部	759-2212	美祿市大嶺町東分320-1	0837-52-5222
	美東地域福祉センター	754-0211	美祿市美東町大田5870-1	08396-2-1686
	秋芳地域福祉センター	754-0511	美祿市秋芳町秋吉5313番地	0837-62-0322

市町名（支部・支所）		郵便番号	所在地	電話番号
周南市	本部・徳山支部	745-8529	周南市速玉町3番17号 周南市徳山社会福祉センター内	0834-22-2115
	新南陽支部	746-0014	周南市古川町1番17号 周南市新南陽総合福祉センター内	0834-62-4981
	熊毛支部	745-0663	周南市大字熊毛中央町3番7号	0833-92-0027
	鹿野支部	745-0302	周南市大字鹿野上字サヤノ原910 コアプラザかの内	0834-68-2998
山陽小野田市	本所	756-0814	山陽小野田市千代町一丁目2-28 山陽小野田市中央福祉センター内	0836-81-0050
	山陽支所	757-0005	山陽小野田市大字鴨庄92番地	0836-72-1813
周防大島町	本所	742-2106	大島郡周防大島町大字小松144-1	0820-74-2948
	久賀地域福祉活動センター	742-2301	大島郡周防大島町大字久賀5058 久賀総合センター内	0820-72-1102
	大島地域福祉活動センター	742-2106	大島郡周防大島町大字小松144-1	0820-74-3305
	東和地域福祉活動センター	742-2513	大島郡周防大島町大字森655 東和自然休養村管理センター内	0820-78-2207
	橘地域福祉活動センター	742-2806	大島郡周防大島町大字西安下庄2-1	0820-77-0190
和木町	740-0061	玖珂郡和木町和木2丁目15-22	0827-52-8644	
上関町	742-1402	熊毛郡上関町大字長島4904番地 上関町福祉センター内	0820-62-0695	
田布施町	742-1511	熊毛郡田布施町大字下田布施3430-1 田布施町中央公民館内	0820-53-1103	
平生町	742-1102	熊毛郡平生町大字平生村618番地の2	0820-56-8000	
阿武町	759-3622	阿武郡阿武町大字奈古3081番5	08388-2-2615	

## 事例における用語の表記について

各事例の中で、使用している専門職・専門機関等の用語について、本冊子では下記の通り略称・通称を使用している場合があります。

通称・略称	正式名称
社協	社会福祉協議会
民児協	民生委員児童委員協議会
民生委員	民生委員・児童委員
サロン	ふれあい・いきいきサロン



## **地域福祉活動事例集**

**～わたしたちの暮らしと地域を支えている活動～**

発行日 平成30年(2018年)3月31日  
印刷 株式会社マルニ  
発行 社会福祉法人 山口県社会福祉協議会  
〒753-0072 山口市大手町9-6  
TEL 083-924-2828 FAX 083-924-2847  
<http://www.yamaguchikensyakyo.jp/>